

第4回 加賀温泉駅施設整備検討委員会 議事概要

日時 平成29年 4月18日(火) 14:00~16:00

場所 加賀市民会館3階 大ホール

出席者 水野委員長、高山委員、上口委員、萬屋委員、鹿野委員、丸谷委員、長谷川委員、古場田委員、師池委員、長谷川委員、井野上委員、新滝委員、小中出委員
(欠席) 竹内委員

事務局 加賀市 眞田部長、高本次長、中野室長、屋後参事、野崎氏、山本氏
金沢計画 北出氏、坂田氏
日本海コンサルタント 小滝、小坂、上野

<次第>

1. 開会 委員長挨拶
2. 協議事項について
 - (1) これまでの意見とその対応
 - (2) 交通結節点機能の検討
 - (3) 景観形成機能の検討
 - (4) 今後の予定
3. 意見交換
4. 閉会

水野委員長 送迎バスのスペースが少ないと指摘があり、今回対応している。高山先生、よろしければ交通部会での議論の説明をお願いします。

高山委員 方針はP6右下の囲みに集約される。まず、優先されるべき交通を整理し、公共交通優先となった。続いて安全・快適について、加賀温泉駅は、朝夕、土日で様相が変わるので、リバーシブル性について議論した。次いで、周辺施設との連携について、そして最後に加賀市の玄関口となる環境空間の整備について議論した。

萬屋委員 北口について議論はしないのか。

事務局 北口には在来線駅舎ができることになっており、駅舎の配置や規模は決まっていないので、今後の検討していきたい。

萬屋委員 北口に送迎バス機能を設けられないのか。

上口委員 北側でP&R利用に対応して欲しい。

事務局 用地取得を進めており、現段階ではP10のように、駐車場と車寄せの配置を想定している。

鹿野委員 送迎バスは、白山口に集約するほうがお客様のお出迎えとして良いだろう。

交通機能については議論の内容が反映されているが、前回突然出てきた景観形成機能の案について、どこまで検討したのか。

水野委員長 いったんP6までの議論としたい。北口については、観光客対応となっていない。白山口の観光バス10台は十分多く、送迎バスも25台となっている。

古場田委員 将来に備えて、余裕をもったレイアウトを考えておく必要がある。ドーム施設やラウンドアバウトは必要なのか。

水野委員長 人の流動だけでなく、滞留機能を考える必要がある。上越と高岡は乗降客が少ないが、駅でイベントをよくやっている。印象に残る駅は、滞留機能をよく考えたものである。

新滝委員 A'について、送迎バスは裏道へ出られるのか。

事務局 現案では車両の出入口はない。

新滝委員 送迎バスの増加も想定されるので、雨に濡れぬように検討して欲しい。

事務局 A'の緑の部分について、屋根付きの歩道にすることも考えられる。

鹿野委員 C'は、アビオ側の屋根付き歩道があるので雨に濡れない。

新滝委員 リバーシブルの考え方が反映されてよいが、現状でも送迎バスが路線バスロータリーに侵入しており、運用をどのようにするのか教えて欲しい。

事務局 新青森では、観光バスの停車位置に整列駐車している。また現案では、25台設けさせているが、リバーシブル性は送迎バスの共同運行化へ対応もできる。

萬屋委員 現在、観光バスを停めるスペースがなく、需要に対応できていない。

事務局 市として、観光バスの乗り入れを禁止はしていない。

水野委員長 C'が最大限取れている。運用については、エリアマネジメントが必要となってくる。

新滝委員 駅発着の短距離観光バスの需要が増えているが、小松にもっていかれている。送迎バスの台数が2倍以上となっており、路線バス会社と協議したこともある。ただ、当事者間ではなく、行政にも入ってもらい、弾力性のある運用をしていきたい。

事務局 エリアマネジメントには、市も協力していきたい。

上口委員 かがやきがを止めざるを得ない駅にする必要がある。不便さがあるとはいけない。

鹿野委員 送迎バスはワゴンの普通車もあるので、ワゴン是一般車のほうに行ってもらいなども考えられる。

高山委員 K&Rで混雑するのは朝夕だけなので、ワゴン是一般車部分を使えばよいというもの、交通部会で議論された。今回のC'はうまく意見が反映されている。

水野委員長 C'の方が優勢であるが、A'支持の方はいるか。

萬屋委員 ラウンドアバウトは二つも必要なのか。

高山委員 必須である。各交通の分離は、ラウンドアバウトだから可能である。

新滝委員 タクシーと一般車を分ける必要があるのか。現状も分かれていない。

水野委員長 乗降客の多い駅は分離している。ただし、詳細については今後の課題となるだろう。

小中出委員 K&Rをドームの位置にできないか。

事務局 環境空間は現代的な駅前広場のレイアウトに必要である。

水野委員長 ディティールや中央の空間については、今後の課題としていきたいが、C'といことでよろしいですね。

師池委員 市民活動の場というのが押し付けのように感じる。ランドマークは必要なのか。

事務局 賑わいの創出も今回の課題である。

師池委員 ランドマーク機能として、P7の緑のタワーは該当するのか。

事務局 市全域でガーデンシティ構想を進めており、駅はその構想を見せる場と捉えている。

古場田委員 ガーデンシティ構想は30年前からあるような考え方ではないか。第2回委員会にあった、自然や挽物はどこにいったのか。

事務局 今後検討する内装等でも適用することも考えている。

古場田委員 このような考え方は内装と外装で切り分けられないのではないか。

事務局 鉄道運輸機構と調整しながら検討していきたい。

古場田委員 ドームありきになっているが、どのように決まったのか。緑は近景ではなく遠景で活きるもので、壁面緑化なども考えられる。私は、ドームはないと考える。

鹿野委員 足湯を作るのであれば、お湯を3温泉郷から運んでくるのか。維持管理も大変であり、駅前には各観光地への玄関口に徹するべきではないか。なお、市民のイベントができる広場として、観光客にも見てもらえる場は良いだろう。

師池委員 私の団体は駅前でイベントしたが、全天候型の空間は貴重である。ガーデンシティは素晴らしいと思うが、現状の生垣もきれいに管理できていない。基本的なもので十分である。障がい者対策やトイレの設置等をしてほしい。

丸谷委員 トイレが必要である。管轄はどこになるのか。

事務局 市となる。詳細は今後検討していきたい。

丸谷委員) 人の交流の場といているが、金沢程に人は集まらない。美術館もあり、もっとシンプルなものでいいのではないか。

水野委員長) 金沢駅の基本構想では、金沢らしい駅、気持ちのいい駅と言葉があっただけで、ドームというキーワードはまだなかった。今回は、もう少し抽象的なものでとどまっても良かったかもしれない。金沢駅では、ドーム下や地下広場がイベントや学会発表等で活用されており、多様な使い方を許す部分は必要である。

高山委員) ゆとりとして半分は余地として残しておいたほうがいだろう。余地に何をするかはこれからの議論であろう。

長野川委員) 前回の案は突然であった。ゆとりがあるのは賛成である。また、美術館をうまく活用してほしい。現状では美術館でトイレや休憩をしている。高校生の居場所が少ないので、その場として機能してほしい。

水野委員長) 金沢のドームでは様々な意見があった。外部からの評価が高く、納得されることもある。

師池委員) 荷物はどこかにおいて座れる場所が欲しい。

水野委員長) ベンチについては、金沢駅は開業後に対応したので、今回は早めに対応できればと思う。パラリンピックに向けてバリアフリー化の対応は必須であろう。

事務局) 今後のスケジュールを説明

鹿野委員) ドームの検討は今後でよいのか。

水野委員長) 今は基本構想段階である。駅前の何らかの空間を滞留空間として用意したい。その点はこれでよいのか。

事務局) 橋上駅について説明

水野委員長) 関西方面の方は、まだしばらくの間在来線であるので、在来線とつながりが大切である。

師池委員) 切符はどこでかうのか

水野委員長) 自由通路で購入できる。

荒滝委員) 地下道は必要がなくなるのか。

水野委員長) 廃止しなければ使えるが、使われなくなるだろう。

古場田委員) アビオシティに直接入れるようにできないのか。

水野委員長) 難しいだろう。

井野上委員) 緑化についてもよろしく願います。

水野委員長) 橋上駅について、今後、JR と協議していく方向とします。